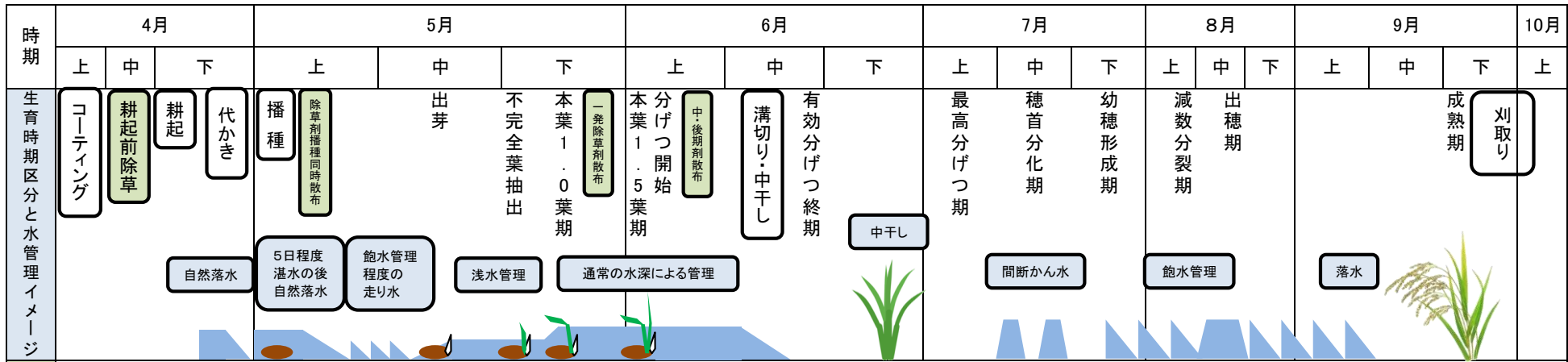


鉄コーティング直播の栽培ごよみ

※ コシヒカリ3割減々栽培…肥料:化学由来窒素量4.2kg以内、農薬:化学合成農薬12成分以内

◎ 塩水選	塩水選で発芽力の高い種子を選ぶ。	◎ 落水出芽	初期除草剤散布後5日で田面が見える程度に水管理をする。
◎ コーティング	コーティング直後は発熱するため薄く広げ放熱し、完全に酸化させる。	◎ 倒伏防止	過繁茂になりやすい。溝切と中干しの徹底でしっかりと生育調整。
◎ 代かき	圃場を均平にし、田面はやや硬めにする。	◎ 病虫害防止	移植に比べ生育が劣るので病虫害の発生に注意する。
◎ 播種	目標苗立ち75~100本/m ² となるよう播種量を決め表面播種とする。	◎ 登熟向上	適期・適量の穂肥。落水は出穂後25日以降。
◎ 施肥	生育が過剰になりやすいため、基肥は慣行の2割程度減らす。	◎ 水管理	飽水管理を基本とし、フェーン、強風時には迅速かん水
◎ 雑草防除	初期除草剤を播種同時散布し、直ちに入室する。	◎ 収穫・乾燥調整	早刈りに注意し、適期に収穫する。急激な乾燥を避け水分15%に仕上げる。



除草体系	<p>耕起前除草</p> <ul style="list-style-type: none"> 【耕起前除草】 ●ラウンドアップマックスロード ●タッチダウンIQ <p>【耕起前(雑草生育期)】</p> <p>※耕起1日前までに散布</p>	<p>播種同時散布</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オサキニ1キロ粒剤(3) 【播種時または播種直後~ノビエ3葉期まで】 ●サンバード粒剤(1) 【播種時または播種直後~ノビエ1葉期まで】 	<p>本葉1.0葉期以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バッチリ1キロ粒剤(3) 【稲1~1.5葉期からノビエ2.5葉期まで】 ●ウイナー1キロ粒剤(3) 【稲1葉期からノビエ2.5葉期まで】 	<p>中後期剤散布</p> <ul style="list-style-type: none"> ●クリンチャー1キロ粒(1) 【播種後10日~ノビエ3葉期まで】 ※1.5kg散布は播種後25日~ノビエ4葉期まで ●クリンチャーEW(1) ●クリンチャーバスマE液剤(2) 【播種後10日~ノビエ5葉期まで】 	<p>バサグラン粒(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【イネ3葉期~】 ●ワイドアタックSC(1) 【イネ3葉期~ノビエ5葉期まで】 ●フォローアップ1キロ粒(1) 【イネ5葉期~ノビエ5葉期まで】
	<p>基幹防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回 【いもち病・紋枯れ病・カメムシ類】 ●ブラシバリダジョーカー剤 ●ダブルカットバリダジョニ 	<p>2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 【カメムシ類】 ●スタークル剤 ●Mr.ジョーカー剤 	<p>・ 出穂期に合わせた防除</p> <p>・ 移植に比べ過繁茂になりやすいため、紋枯れ病と穂いもちに注意</p>		

防除	<p>初期害虫</p> <ul style="list-style-type: none"> 【イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ】 ●トレボン粒剤 ●シクロバック粒剤 3cm以上湛水して水面施用 	<p>葉いもち</p> <ul style="list-style-type: none"> 【葉いもち予防】 ●オリゼメート1キロ粒剤 3cm以上湛水して水面施用
----	---	--

管理の要点

コーティング

- 専用コーティングマシンによるコーティング作業
- コーティング前の浸種目安は積算温度40~60℃
- コーティング後は薄く広げて放熱する

圃場準備

- 高低差が大きい圃場は避ける
- 水管理が容易な圃場を選ぶ
- 代かき後、自然落水した状態で田面をやや硬めに仕上げる
- 代かきから播種までの期間が長くなると、圃場がいついて播種機の手輪が土を掘り返す

播種

- ◎ 播種時、以後の平均気温14℃以上
- ◎ 晴天、温暖な日に作業を行う
- ・ 種子のコーティング比は0.3~0.5
- ・ 発芽試験で発芽率90%以上を確認
- ・ 播種量は10a当り乾粒で2.5~3.0kg
- ・ 目標苗立数は75~100本/m²

溝切り・中干し

- ◎ 倒伏・過繁茂防止のための早期中干しを徹底
- ・ 目標穂数の80%を確保したら直ちに落水
- ・ 本葉7葉期に溝切・中干しを実施
- ~溝切り、中干しの効果~
- ① 無効茎の発生抑制
- ② 下位節間の伸長抑制
- ③ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ④ 収穫作業を容易にする地耐力の確保
- ⑤ フェーン等緊急時の迅速なかん水、排水

出穂期

- ・ 飽水管理(田面が乾かないように)
- ・ フェーン、強風時の迅速なかん水
- ・ 落水は出穂後25日以降
- ・ 出穂期・収穫時期は移植に比べ7~10日程度遅くなる
- ・ 収穫期の目安は積算温度で1000℃

目標苗立数に対する播種量の目安

苗立率	播種量(kg/10a・本/m ² ・本/m)		
	2.5・93・28	3.0・111・34	3.5・130・39
40%	37	44	52
50%	47	56	65
60%	56	67	78
70%	65	78	91
80%	74	89	104

中干し時期の目安

播種日	目標穂数		時期
	(本/m ²)	茎数(本/m)	
5月1日	370	300	6月26日頃
5月10日	370	300	6月30日頃

コシヒカリの目標収量と収量構成要素

収量	480 kg/10a
穂数	370 本/m ²
1穂粒数	70 粒
m ² 当り粒数	26,000 粒
登熟歩合	88 %
千粒重	22.3 g